

ITシステム開発のテックファーム(本社東京都新宿区、千原信悟社長)は、オフィス家具大手のココヨの実験拠点で、高速通信規格「5G」環境の働き方に関する共同研究に取り組んでいる。ロボットや3D(3次元)画像を用いたソリユーション開発を進め、遠隔地で働く人のニーズに応える。新型コロナウイルスの感染拡大でテレワークが普及する中、次世代型オフィスのあり方を検証する。

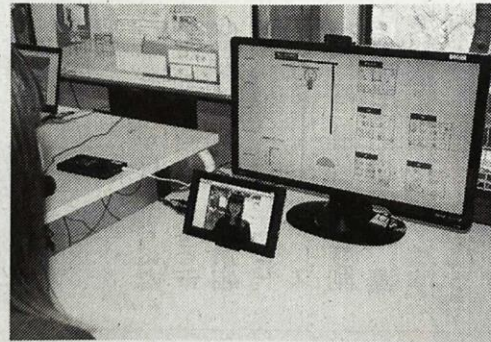
(東京・佐々木閑)

5Gで次世代の働き方検証

テックファーム



3Dのアバターが動くバーチャル教室



カメラの認識機能で健康状態を見える化する

ココヨとロボット、3D活用

ココヨはこのほど、東京都港区の自社ビルをリニューアルし、新技術の社会実装を目指す実験拠点「ザ・キャンパス」を開設した。

テックファームは同施設に整備された5G環境を活用し、大容量、高速通信、多人数同時接続といった5Gの

特性を生かしたソリユーション開発に取り組んでいる。現在開発を進めるのは、自走型ロボットを使ったコミュニケーションシミュレーションシステム。遠隔地にいる人がアプ

リを使ってオフィス内のロボットを操作し、話し掛けたい人や周囲の状況を映像で確認することができる。ロボットを通じて実際に声を掛け、ビデオ通話が可能。「離れた場所にいる人に声を掛けるタイミングがわからない」というテレワークならではの課題を解決する。

従業員の体調管理をサポートするソリユーションも開発中だ。デスクに設置した小型コンピュータとカメラが人の表情からストレス度や健康状態を読み取る。これらのソリユーションは、同社が手掛けるIoT(モノのインターネット)プラットフォーム「MOL(モル)」を基盤に開発を進めている。モルは屋内外の人やモノの位置情報を測定し、所在管理や動線分析などに応用できる。今回の共同研究で得た知見を、独自製品の開発に展開する考え。

実用化に向けては、画像情報を収集される従業員が抵抗を感じるケースがあるなど課題が多い。同社は「検証を進め、現場に役立つソリユーションを提案していきたい」としている。

例えば、都内のオフィスと海外にある生産拠点をつなぎ、開発中の試作品を立体的な3D画像として共有することができるとも。また、バーチャル空間を動き回るアバターに3D技術を使えば、より臨場感のあるオフィスや教室を仮想空間に再現できる。家具や人の3Dデータ化に、テックファームグループでAI事業を手掛けるギャラクシース(東京都豊島区)の技術を応用する。



●東京支社
東京都中央区
銀座5の9の13
銀座菊正ビル
電話 03(3572)3601
FAX 03(3572)3603
毎週金曜日に掲載
します

5Gの特性である大容量高速通信を生かし、3Dを用いたソリユーション提案にも力を入れる。現実の景色に仮想映像を重ね合わせるMR(複合現実)装置を